

令和5年度 自己点検評価についての学校関係者評価 報告書

令和6年3月30日（土）13:00～評議員会にて実施

*令和5年3月19日（火）～28日（木）にかけて教職員で自己点検を行い、報告書（別紙参照）を作成。3月30日（土）に行われた評議員会の中で、園長から報告と説明を行い、下記の通り学校関係者評価を受けた。

◎報告書 2. ー1) 保護者および外部への発信について

- ・園のホームページの更新の頻度が低いのではないかと。常にアップデートされていくように心がけるとよい。
- ・若い世代の保護者ほど、文字よりも映像に敏感に反応する。教育内容を発信する方法にも写真や動画を活用することは重要であろう。
- ・保護者が妊婦さんの頃から幼稚園のことを知ってもらい、くらいの見通しが大事だと思う。また、若い世代では、ホームページでさえ、情報収集の場としては既に少数派であることを認識する必要がある。むしろインスタグラムやフェイスブックで日々のつぶやきをキャッチするところから情報を得ている人の方が多いという実感がある。
- ・情報発信を増やすことは、同時にそれに対する苦情への対応も増えることを覚悟し、慎重に備えておく必要がある。

◎報告書 2. ー2) 働き方改革について

- ・教師たちが様々な工夫をしつつも、幼稚園の教育現場の仕事の性質（流動的、臨時対応が頻繁等）から、働き方改革は大変困難であることは想像できる。それでも、諦めずに取り組んでほしい。
- ・やはり組織の中で「上」（先輩、指導的立場）の人が率先して先に帰ることが大事である。

◎報告書 2. ー3) 教育内容について

- ・園児が、頭だけでなく体も心も動かしながら、色々なことを感じながら経験し、学んでいけるよう、教育内容が工夫されていることがよくわかる。それをもっと効果的にアピールしていけるとよい。
- ・25年近く前も我が子が園児として同じように和久積み木で遊んでいたことを懐かしく思い出す。駒場幼稚園が長い年月変わらず取り組んでいる遊びの様子を見ると、世の中が変わっても子どもたちが好きなものは好きなのであって、根本的なところで子どもたちは変わらないということを改めて確認した。
- ・一年を通して継続して取り組んでいる稲作の取り組みが、あらためて園児にとって、季節の変化と共にある営みを知ることとなっており、この時代にあって貴重な経験になっていると思う。
- ・多岐に渡る取り組み内容が、学年ごとに異なる様子と併せて報告されていて、園全体で子ども同士互いに刺激を受けながら過ごしている様子がわかる。

以上